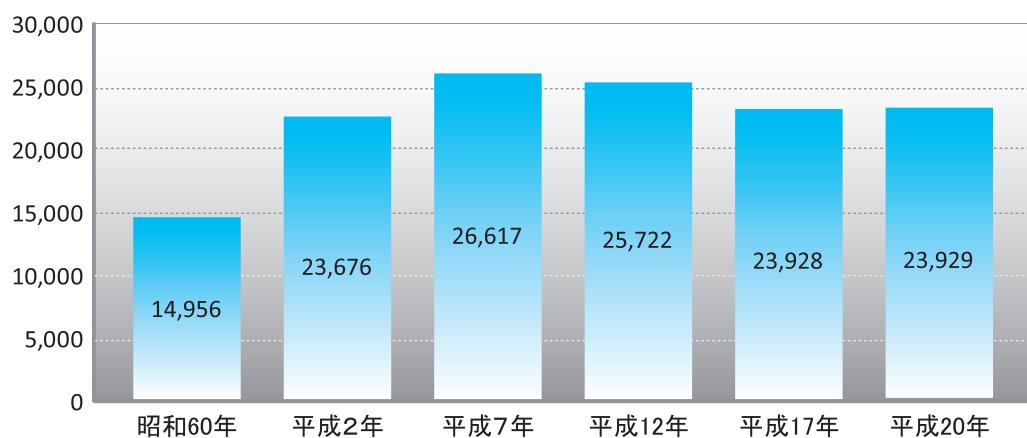


第3節 数値で見る豊能町

1 人口の推移

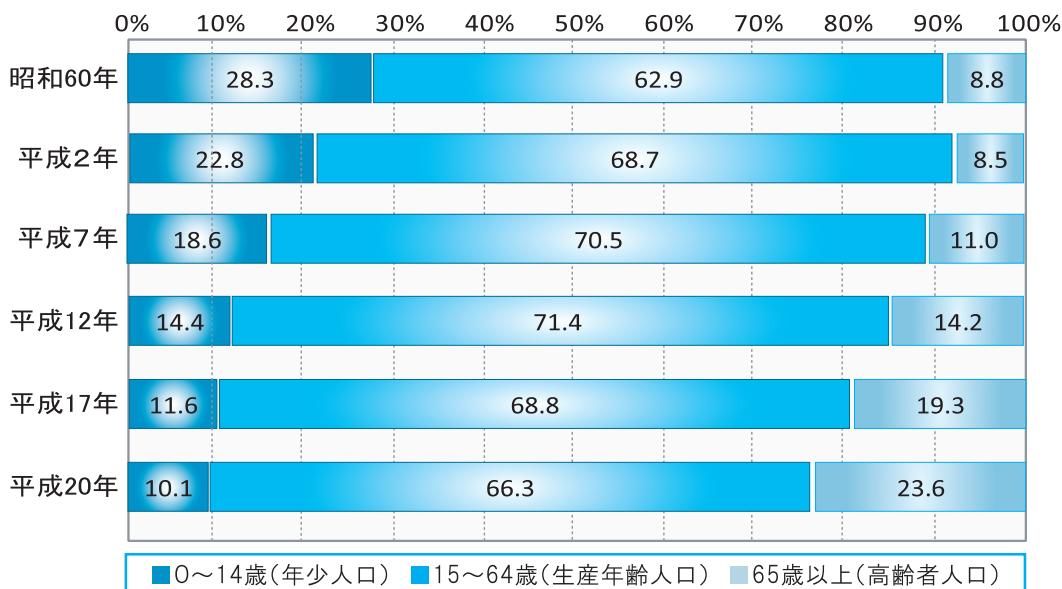
本町の人口推移をみると、平成7年を境に減少に転じており、平成20年の総人口は23,929人と平成7年以降一貫して人口の減少が続いています。特に、年齢3区分別人口構成比の推移をみると、平成20年では年少人口の構成比が10.1%と昭和60年より18.2ポイント減少し、少子化が急激に進んでいます。一方、高齢者人口の構成比は平成20年では23.6%と昭和60年より14.8ポイント増加し、すでに5人に1人は高齢者となっています。今後も団塊の世代が高齢者となっていくことから、これまで以上にまちの高齢化が進むものと予測されます。

● 総人口の推移 ●



資料：国勢調査及び住民基本台帳登録人口（平成20年9月末）

● 年齢3区分別人口構成比の推移 ●



■ 0～14歳(年少人口) ■ 15～64歳(生産年齢人口) ■ 65歳以上(高齢者人口)

資料：国勢調査及び住民基本台帳登録人口（平成20年9月末）

※年齢不詳を含む総人口をもとに構成比を算出しているため、合計が100.0%にならないことがあります。

2 世帯数の推移

世帯数については、総人口と異なり、増加の一途をたどっています。平成20年の世帯数は8,777世帯と、総人口がピークとなった平成7年より1,305世帯、17.5%増加しています。

一方、世帯あたりの人数は、平成2年の3.75人をピークに減少し続けており、平成20年では2.73人となっています。これは核家族化の進行が進んでいることが大きな要因ですが、高齢化に伴う高齢者世帯の増加や少子化も要因としてあげられます。

● 世帯数及び世帯あたり人数の推移 ●



資料：国勢調査及び住民基本台帳登録人口(平成20年9月末)



3 産業別就業人口の推移

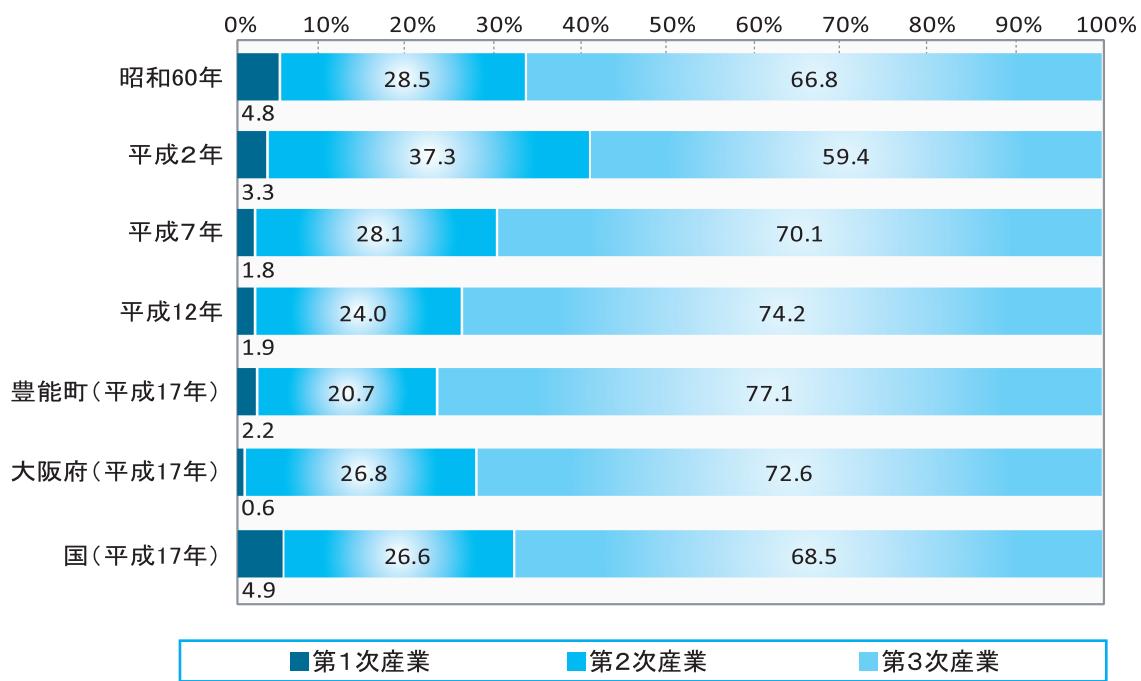
産業別就業人口の推移をみると、平成7年をピークに減少に転じています。しかし、第1次産業については、平成17年が226人と増加に転じています。産業別就業人口構成比の推移をみると、第2次産業は減少する反面、第1次産業、第3次産業は増加傾向となっています。平成17年を大阪府平均と比較すると、第1次産業、第3次産業については大阪府平均より高くなっています。

● 産業別就業人口の推移 ●



資料：国勢調査

● 産業別就業人口構成比の推移【大阪府、国との比較】●



資料：国勢調査

4 財政状況

近年の財政状況をみると、「歳入総額」「歳出総額」については、平成18年度を境に減少に転じています。本町の財政については人口減少や税制改革、経済環境などの変化を受け減収が続いているおり、毎年度、これまでの基金を取り崩し歳入額に補填しているのが現状となっています。また、その「基金残高」についても現状の住民サービスを続けると底をつく見込みであり、今後大幅な歳入不足の発生が見込まれます。そのため、財政再建は緊急の課題となっています。

| | 単位：百万円 | | | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
| 歳入総額／A | 7,553 | 7,613 | 7,637 | 7,795 | 7,967 | 6,441 | 6,250 |
| 歳出総額／B | 6,854 | 6,870 | 7,334 | 7,402 | 7,741 | 6,196 | 6,017 |
| 形式収支（A-B）／C | 699 | 743 | 303 | 393 | 226 | 245 | 233 |
| 翌年度繰越財源／D | 523 | 532 | 56 | 305 | 75 | 67 | 34 |
| 実質収支（C-D）／E | 176 | 211 | 247 | 88 | 151 | 178 | 199 |
| 基金残高 | 3,177 | 2,983 | 2,616 | 2,411 | 1,440 | 1,397 | 1,331 |
| 実質基金取り崩し額 | 593 | 194 | 367 | 205 | 971 | 43 | 66 |

資料：豊能町財政推計資料

